

「ふじのくに協働の推進に向けた基本指針」の改定について

1 基本指針改定の趣旨

(1) 協働・NPOの状況

- ・地域の課題や住民の価値観・ライフスタイル等の多様化が進む中、協働に基づく地域づくりの重要性・有効性が広く認識されるようになり、県の様々な部局で各々の施策分野における協働の推進が掲げられているほか、県内市町においても協働に基づくまちづくりを謳う条例や指針等の策定が進んでいる。
- ・協働の様々な主体のうちNPOは、新しい社会的課題にいち早く気づいて取り組む「先駆性」やすばやく意思決定や行動ができる「機動性」など優れた特質を持っており、協働に基づく地域づくりを進める上で大きな役割が期待されている。

(2) 考え方

- ・県の各部局や市町が掲げる協働の指針等は、これらが協働の主体の一つとして、それぞれの立場から他の主体と関わる際の方針を示す内容が多く、地域社会の様々な場面で協働が実践されていくためには、施策分野や地域性の違い等を超えた「より原則的な協働のあり方」について協働の関係者間で共通の拠り所となるものが別に必要である。
- ・様々な協働の形態の中でも、NPOがその優れた特質を発揮して積極的な役割を果たしながら協働が実践されることが、望ましい協働のあり方を具現化する一つの有力な方法であると考えられる

(3) 基本指針の位置づけ

「ふじのくに協働の推進に向けた基本指針」は、「地域社会を豊かにする協働のあり方を広く県民の間で共有化するために示すもの」であり、併せて「そのような協働の推進に向けて、NPOに関する事項を中心に静岡県としての取組の方向性を明らかにするもの」である。

(4) 今回の改定の目的

前回改定以降のNPO・協働を取り巻く環境の変化や基本指針に基づく取組の進捗状況等を踏まえ、NPOが関わる協働の更なる推進に資する内容となるよう見直しを行う。また、基本指針の位置づけや改定の内容がより理解されるよう、副題を含めた名称についても改めて検討する。

2 NPO・協働をめぐる近年の状況（参考資料2－1を参照）

- ・地域の課題の一層の多様化・複雑化
- ・個人の価値観やライフスタイルの一層の多様化
- ・協働の主体内でのプレイヤーの多様化
- ・協働という手法は一定程度定着

3 基本指針改定の内容（案）

（１）協働のあり方と目指す姿

NPOが関わることにより、地域の多様な主体の間で互いの立場や価値観、活動スタイル等を尊重したより質の高い協働が実践され、地域の課題解決力と協働への参加者の幸福感の向上が実現する。

（２）課題

- ①組織や事業のスタイルに応じたNPOの組織運営基盤の強化
- ②個々のプレイヤーの多様性の中から協働のベストマッチが生まれるしくみづくり
- ③NPO活動や協働への多様な形態の参加の促進

（３）県の役割及び取組の方向性

①県の役割

本指針において目指す姿の実現に向けた諸課題に対し、先駆的な取組の実施及びその成果の発信、スケールメリットを活かした課題解決のしくみづくりを行う。

②県の取組の方向性（参考資料２－２を参照）

取組課題	現状	今後
①多様化するNPOの組織運営基盤の強化	・市民活動センター等中間支援組織の支援力向上	・NPOのタイプ別支援メニューの整備 ・中間支援組織と各種専門家との連携
②多様なプレイヤー間のベストマッチの促進	・協働及びNPOの事例共有 ・中間支援組織のコーディネート力向上	・多様なプレイヤー間の共通言語となる組織や事業の「評価」の普及・活用 ・金融機関など新たなコーディネート役の輩出
③NPO活動・協働への多様な参加の促進	・地域課題解決の必要性訴求 ・ボランティアを入口とした参加の促進	・NPO活動や協働への参加を通じた自己実現の訴求 ・プロボノ、副業、寄付等多様な参加のチャンネルの整備、新たなライフスタイルの提案

4 改定スケジュール（案）

R元年度	R2. 1. 27	第2回委員会	改定の方向性についての意見交換
	R2. 3 月	課題調査	NPO・一般社団法人に関する調査結果判明
R2年度	R2. 4～6 月	意見交換	市町、NPO等との意見交換
	R2. 7 月	第1回委員会	改定指針の骨子案について意見交換
	R2. 10 月	第2回委員会	改定指針の原案について意見交換
	R3. 1 月	パブコメ	改定案についてパブリックコメントを実施
	R3. 2 月	第3回委員会	パブコメ意見等を踏まえた最終案の確認
	R3. 3 月	公表	

(イメージ図)

